



# ヒップホップ・アナムネーシス

ラップ・ミュージックの救済

◆A5判変型・264頁・本体2500円

2月25日発売

山下壮起・二木信 [編]

内閉したキリスト教会の限界を乗り越えるギャングスタ・ラップの宗教性を論じた『ヒップホップ・レザレクション』。その議論を引き継ぎ、ラッパーの人生、ブラック・ライヴズ・マター(BLM)、フェミニズム、コロナ以後の社会といった視点から、ヒップホップが発揮する救済の力にアナムネーシス(想起すること)を描き出す。BLMと共闘する黒人牧師の説教、6人の人気ラッパーたちへのインタビュー、気鋭のDJ陣が寄稿したディスクガイドなども収録したかつてないヒップホップ・アンソロジー。

既刊 山下壮起 ヒップホップ・レザレクション ラップ・ミュージックとキリスト教 本体3200円

# 山上の説教を生きる

八福の教えと平和創造

◆四六判・216頁・本体1900円

ジョン・デア [著] / 志村真 [訳]

2月25日発売

「心の貧しい人々は幸いである」で始まる八福の教え。この「幸いだ」というイエスの祝福を、本書は平和創造へと「立ち上がって前進せよ!」という呼びかけに大胆に読み替える。心の貧しい人々、悲しむ人々、柔和な人々、義に飢え渴く人々、憐れみ深い人々、心の清い人々、義のために迫害された人々——彼らの生き方・霊性とは何か? 平和活動家でカトリック司祭である著者が具体例に則して語る。

既刊 ジョン・デア / 志村真訳 剣を収めよ 創造的非暴力と福音

本体1800円

# ゴスペルジャーニー

君に贈る5つの話

宮平望 [著]

2月25日発売

◆B6判・143頁・本体1200円

キリスト教の福音（ゴスペル）の、ヘレニズム的背景をさぐる尚友の旅路（ジャーニー）。読者はいつの間にか、古代の思索家たちの足跡を著者とともに辿っているだろう。



## 宮平望 シリーズ既刊

- ゴスペルエッセンス 本体 950円  
 ゴスペルフォーラム 本体 1100円  
 ゴスペルスピリット 本体 1100円  
 ゴスペルハーモニー 本体 1200円

### 【目次より】

- 第1章 アリストテレスへの旅  
 現実と経験  
 第2章 プラトンへの旅  
 理念と対話  
 第3章 ギリシャへの旅  
 ギリシャ神話とキリスト教会  
 第4章 トルコへの旅  
 イスラム教とキリスト教  
 第5章 イスラエルへの旅  
 ユダヤ教とキリスト教

# 神の恵みの水路

現代に問いかける「ローマの信徒への手紙」

佐々木栄悦 [著]

2月16日発売

◆B6判・152頁・本体1300円

福島ので東日本大震災に遭遇した著者が、パウロの語ろうとした福音を全身で受けとめ、ローマ書の16の各章の主題にそって平易に解き明かす。

「パウロがローマの教会の人たちに伝えたいことは、福音でした。わたしも、今、皆さんにお伝えしたいことは、福音です。」

### 【目次より】

- 序章 神の恵みの水路  
 第1章 人間の罪深さ  
 第2章 心地よい勘違い  
 第3章 世に属する人と神に属する人  
 第4章 信仰って希望のこと？  
 第5章 信じて苦難が来るのはなぜ？  
 第6章 キリストに結ばれる  
 第7章 悔い改めの恵み  
 第8章 祈りへの道  
 第9章 神の選び  
 第10章 聞いても悟らなかつた民へ  
 第11章 水を止めて田園を潤す  
 第12章 新しい生活  
 第13章 服従か抵抗か、それが問題だ  
 第14章 すべてのことは許されているが  
 第15章 使徒パウロ  
 第16章 チームの力

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

## 共観福音書註解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価8500円

大野恵正著

## 神の言葉と契約

出エジプト記19—24章の研究

モーセ五書を中心問題（神顕現、十戒、契約の書、そして神と民の契約）を記す基層資料が、申命記主義者によって信仰文書としての高みへと決定的に引き上げられ、さらにヤハウイスト、祭司資料編集者によって現在の形に整えられた消息を明らかにする労作。

A5判・予価6000円

カリストス・ウエア著／松島雄一訳

## 正教の道 キリスト教正統の生き方

正教会の全体像を知る上で今や古典的定番となった原書の待望の邦訳。正教の教えを簡潔に説き、古代の教父、現代の著作家、正教の祈禱文なども豊富に引用され、その霊性の深さと広さに迫る。

四六判・予価2500円

● 1月に出た本と雑誌

## ジーザス・イン・デイズニールランド

ポストモダンの宗教、消費主義、テクノロジー

デイヴィッド・ライアン著／大畑凜、小泉実、芳賀達彦、渡辺翔平訳



世俗化論の想定に反して多様な宗教実践が開花しているポストモダン社会。監視社会論の泰斗がその謎と新たな宗教の可能性に迫る。現代を生きる信仰とは？

◆ 四六判・本体3500円

## カール・バルト研究

宇都宮輝夫著

絶対的逆説を指さす神学



聖書解釈学という切り口から見えてくるもの、弁証法やアナロギアを通して浮かび上がる福音理解、神学史家としての慧眼の秘密など、半世紀に及ぶ研究の総決算。

◆ A5判・本体3600円

## 福音と世界

2月号 惑星の蜂起

◆ 税込6600円

寄稿者：高祖岩三郎、白石嘉治、中西淳貴、田崎英明

上原こずえ、早助よう子／岡部耕典／有住航、村

澤真保呂、栗田隆子、金迅野、好井裕明、土井健司、

マニユエル・ヤン、辻学、内田樹

●先月に続き、「ヒップホップ・アナムネーシス——ラップ・ミュージックの救済」(山下壮起・二木信編)の話が続きます。同書の企画でまず念頭にあったのは——山下さんの『ヒップホップ・レザレクション』もそうでしたが——ヒップホップ好きが納得できる本にすることでした。これはいわゆる「ヘッズ」として言いたいのですが、ヒップホップがメジャー化した昨今でも、さして好きでもない人がビジネスやネタとしてヒップホップに触れているときにはなんとなくわかります。知識や経験の豊富さという評価軸とも少し違う愛情の強度が問われるのでしょうか、この意味でのクオリティを押し上げることは絶対条件に思われませんでした。いっぽう、キリスト教についても同じことがいえます。つまり、キリスト教のいう「救済」の現在形をはっきりと伝える本にせねばならないということです。その点、同書の目玉のひとつがオサジェフォ・ウフル・セイクウ牧師の説教「ファーガソンの前線より」です。黒人ペンテコステ派の牧師であるセイクウ牧師は、二〇一四年にマイケル・ブラウンが白人警官に殺害されたその日から、ブラック・ライヴズ・マターとの共闘を続けてきました。爆音でヒップホップを鳴

らして抗議する、「金歯をはめてタトゥーをした腰パンの黒人の若者たちのなかに、神が人間の姿をとおして現れるのを見た」と彼は言い切ります。そのメッセージは、『ヒップホップ・アナムネーシス』という音楽書にしてキリスト教書が成り立つ必然性を開示してくれているのです。(堀)

●国内で新型コロナウイルス感染者が発生しても一年が過ぎました。この間特に考えさせられたのは、人と会うことの意味は何かということでした。生活で最も変化したのは、やはり対面活動が激減したことです。在宅ワークが増えたり、会議や打合せの多くがオンライン会議に取って代わったり、もちろん出張もなくなり、実際に人と会って顔と顔を合わせる機会が減りました。当初はオンラインに戸惑いもありましたが、すぐ慣れるもので、移動の負担がなく、通信環境さえ整えばクリアな画像と音声で話し合えるのはたいへん便利です。発言者の表情もむしろよりよく観察できます。その限りではリアルな対面にこだわる理由を私は見出せません。にもかかわらず、音声と画像だけでは享受できない何かがあり、これこそが人と会うことの意味だと思いますが、それは何でしょうか。(小林)

# 福音と世界

2021年  
3

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・死刑なき世界へ

刑事司法制度としての死刑を考える

田鎖麻衣子

主権権力から別の赦しへ

守中高明

黒い水——死刑はなぜ正義なのか——市野川容孝

死刑・戦争・天皇制——太田昌国

究極的な差別としての死刑制度とフエニ

二ズム——命をどうとらえるか——清末愛砂

修復的正義は死刑なき世界への道と

なり得るか——石原明子

《書評》『日韓キリスト教関係史資料Ⅲ』……西原廉太

【新連載】

◆古代イスラエル文学史序説 1……勝村弘也

【注目の連載】

◆福音のフラグメント 3……有住航

◆霊性のエロジーあるいはアマミテリア 3村澤真保呂

◆「Say a Little Prayer」開かれる世界 12……栗田隆子

◆新約釈義 第三アモテ書 12……辻 学

◆くまさんのシネマめぐり 15……好井裕明

◆教父学入門 19……土井健司

◆バビロンの路上で 24(最終回)……マニエル・ヤン